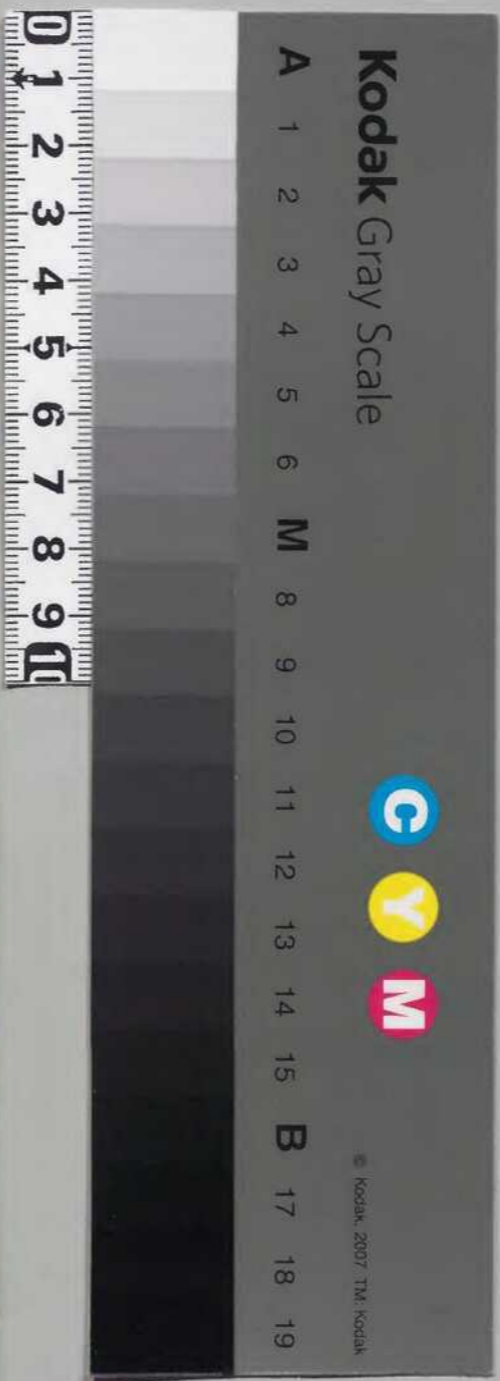


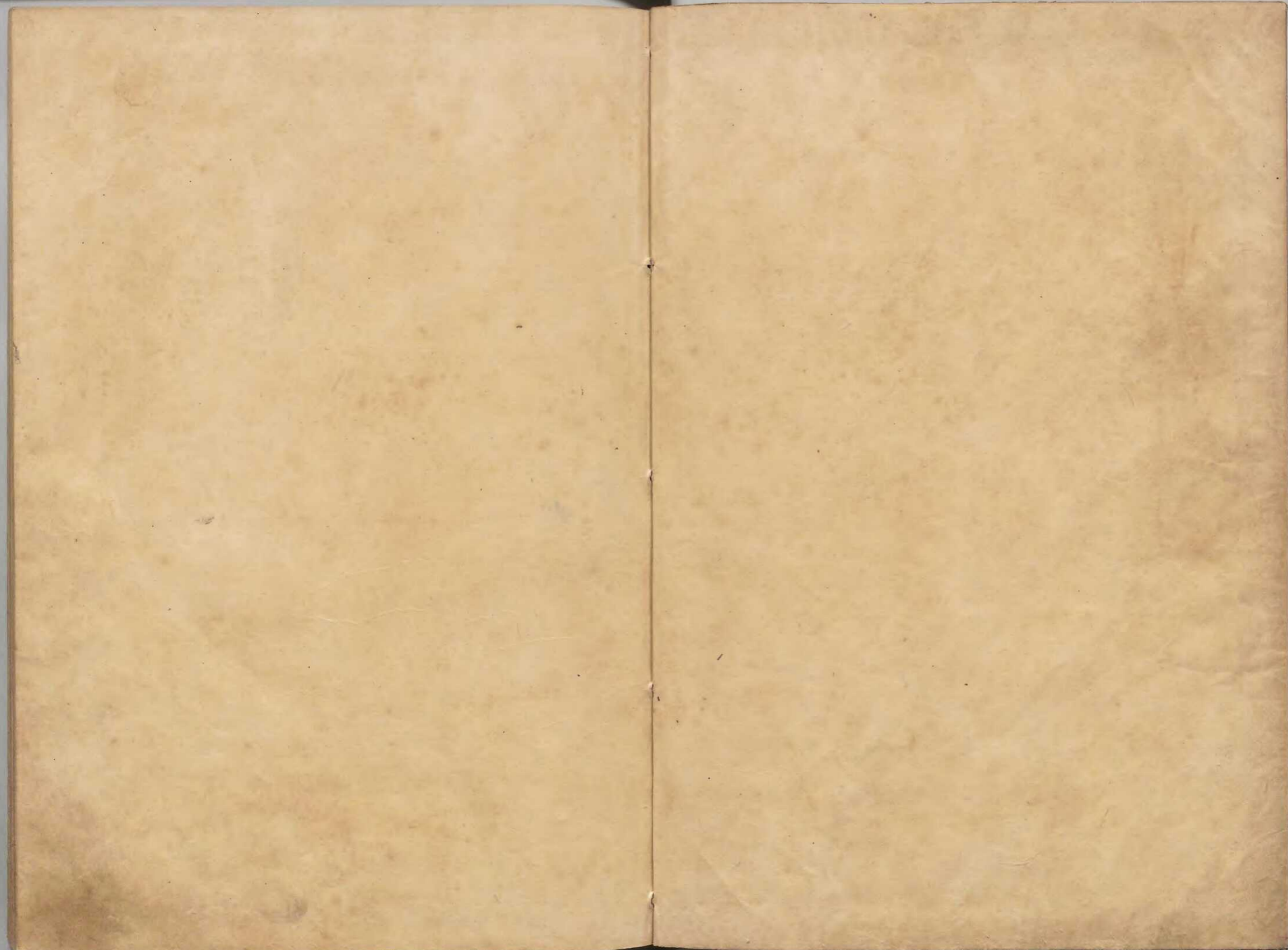
113

寛永諸家譜

藤原氏壬四冊之内四
為憲流并貞嗣流

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 (113)
函號	76 1





天野

蜂屋

大道寺

寛永諸家系圖傳

藤原氏

為憲流

天野

壬四 南家

淺草文庫

遠景

天野と号と

後内

左兵衛尉

後民部丞と称と

改系 けいけい

和泉前司 いづみのぜんし

系経 けいけい

安藝前司 あきのぜんし

遠时 とほとき

周防前司 すおうぜんし

経顕 けいけん

周防七郎左衛門

経政 けいせい

周防三郎

系隆 けいりゅう

远江守 とほへのまもり

秀政 ひでせい

安藝守 あきのまもり

系政 けいせい

左京亮 さきやうりやう

系顕 けいけん

安藝入道 あきのにちどう

系保 けいほ

山城守 やましろのまもり

景秀 かげひで

远江守 とほへのまもり

景貞 かげさだ

民部少輔 たみぶのすけ

定系 さだけい

左大臣門尉 さだちじんもんゑい

遠直 とほぢく

甚右衛門 じんゑもん

景行 かげぎょう

修及助 しゆゑきすけ

遠房 とほふさ

修及助 しゆゑきすけ

生國三河 なまくにの

清康君 きよかみ
一子 いっこ
一子 いっこ
一子 いっこ

景隆 かげりゅう

甚右衛門 じんゑもん

生國同前 なまくにどうぜん

廣忠卿 ひろあきら

東照大権現 とうてうだいこんげん
一子 いっこ
一子 いっこ
一子 いっこ

大権現 だいこんげん
一子 いっこ
一子 いっこ
一子 いっこ

と云、嫡男康景供奉と川と心京隆
参列しりあつて清洞度等とて

月系

天正八年七月四日死す、年七十八

法名正欣

康景

三郎 生國同お

大指現しりつて清禱乃

字と結りし清奏者あつてびり

年男乃役と何とて

天文十八年、後列しり、供奉と

参列、东條乃、城とけとる

大指現乃、清掌しり、帰と、康景

嚴命とて、城とけとる

そのち、嘉例とて、参列

吉田長藤等乃、較城とけとる

遠列、濱松しり、と、康景三

なひ乃ま一し後列よとひく
も向ふたれとつと心

永禄六年参列本願寺つ徒一揆
乃とま大将る場小平太を討捕

同十二年を列天方よりとひく
首級よひ疵とひりぬふ

元亀三年三方原合戦川退付
敵兵とひひきつて康景

大指現乃涉眼ありとひく令のる

鎧とる兵と渡とありとま

大指現濱松乃城より入給ひく乃ち

康景ちびり植村庄大乗の

作とけし肉りりて進手乃門と

衛護とる乃ち康景又嚴令

とがゆりしげとて鉄炮十六

挺とりし中一屏障より

しり鉄炮とまから敵陣と劫と

りしとひく敵兵刑部より

ありては賞りしよりは参列
渥美郡 粟馬中山乃与村二百貫

解乃領地と云ふ

天正三年信玄が士率を列小山

城より指笥中れりしよりは

一りしよりと云ふは康景を

一りしよりと云ふは

同十一年後列江尾乃城代と云ふ

同十二年長久手合戦乃と云ふ

康景と云ふは勇士主従三人を
討捕

同十三年乃云

大指現豊佐秀吉と婚禮といふ

刻康景沙使と云ふは

と云ふは秀吉高木貞宗乃刃と

云

同十八年相列小田原陣に云ふ

つひと云ふは魔下と云ふ

關東沖入承乃と承下總兵にて

采地三千石と給ふ

長又承又年關原沖陣乃とき

嚴命よりうけて江戸沖る丸乃

留守として

同六年強列真玉寺城を給り

一万石と給ふ

同十二年康景が下人公氏と殺

害を罪よりしるし勅氣とが給

同十八年二月廿四日死に案七十七
法名宗恩

景房

傳大承の 生國同お

大権現よりつとくつりり四年

男乃俊と川と心

教系昌

甚大承の尉 生國同お

幼少乃と承、忠濟三郎 伝康主

一子孫

大指現一子孫

長十九年十月十九日

死に又十八歳

景利

長七歳

直勝

大原伊兵衛尉

生五同お

母大原作之右衛門が娘

永禄八年

大指現今川氏真と名残乃時正月廿

直勝が御祖母作之右衛門參列若田

下地乃どりてよとひく〜

鉄砲りりあり忍濟とて死に

ときよ四十二歳とて

三歳乃女子一人あり

參列安祥村大細村乃内よとひく

食禄しゆくとくしりりしれ又作また之の大衆たいしゆの
功いさありしゆあり

されしるもさき作つく之の大衆たいしゆの十三衆じゅうさんしゆ乃時
山やまちりあり其その干かん戈ご備びさり
とこり敵てきしこ来き家け作つく之の大衆たいしゆのこれ
りむひく相あひつひし十四衆じゅうしししゆ乃
とき矢や文ぶんと敵陣てきじんり射いくまじく
軍謀ぐんぼうとめしりし十七衆じゅうしちしゆ乃とき
能よとありし能よ場ばとよ能よ凡おほ一生いっせい

乃中ちゆう敵てきとお接あひり十四十三衆じゅうしししゆ能よと
ありしりし十七衆じゅうしちしゆなり

大指現乃清物おほさしげん乃しよものありし時作ときつく之の大衆たいしゆの
りしりし南なん又作また之の大衆たいしゆの書かき後のち林はやし原はら
武部ぶべ大楊たいやう康政かうせいが伯父おや林はやし原はら又また之の大衆たいしゆの
乃のち一いつ流りゅう赤せきと
よ嫁よめとひるがゆへり直ちよく勝かつと
してその迹あととつごめ康政かうせいが

許もとよあり

大指現おほさしげん武列ぶれつ悉しつりしりし清しよ鷹たか狩かりの

とき、直勝

大指現と孫礼しんれい——

ろり大原氏と称なづと金かねのハ

汝等兄弟なんぢらありと乃すなはち海うみ又またたれ

よりて直勝大原と称なづと

長信ながのぶ

従又位下 豊前守 志列 濱松

生家 母同お

長文七年

大指現よりつとく

同十九年下野しもとの必足利郡 桑新くわに

郷さとよりとみく桑地くわにと給たまふ

同年大坂陣より供奉くわんぷと

元和元年大坂再陣さいじんよりとま

きくぐい

同二年より

名徳院殿よりつとく川かわに御納戸おんんど

番ばんのひとが

同年足利郡後田郷日向郷

とひく頃地とくく人給ふ

同又年上野至新田郷出塚

郷よりとひく又桑地とる之

寛永三年九月五日 鈞令と

東福院より

位下り叙せしむる守兼

位下り叙せしむる守兼

中宮少進より任じ且堀列

綴喜郡大任郷同至乙割郡

下久世郷よとひく合邑とく

給ふ

同十七年

將軍家の鈞令より

定輕三十人とあつる

正勝

勘左衛門尉 生國茂翁

母より一に別

大権現

名徳院殿

將軍家より一に別

長重

弥五右衛門尉

氏列江戸に生家

母を大河内金吾尉久綱の女

寛永十又年

將軍家より一に別

康宗

對る守

生國を以

大権現より一に別

天正十八年秀吉に別

征伐のとき駿河清見より

宿を父康景

大権現の作より一に別

郷長ちやうぢやうにまゝり

大権現おほごんげん惣そうヶ原がはらよ赤陣あかじんととりたまふ

康宗かうそうはここにありし赤使あかせとて秀吉ひでよしよ

福ふく—ふく旅程りょてい平安へいあんなりしとてとて歿はつせしとき

秀吉ひでよし久玉ひさたまの膝指ひざさしとたまふ康宗かうそう

大権現おほごんげん—おほごんげん後命ごのみこと—ごのみことなむらひからなむらひ魔ま

下にまゝり

同十九年どうじゅうくわねん奥列陣おくれつじん—おくれつじん供くわひ

文禄元年ぶんろくげん朝鮮陣ちやうせんじんの時とき名護屋なごやよ

あつぐひしつる

長又ちやうまた年ねん野列のれつ小山こやま—こやま供くわひ

作しやくりしつる

名徳院なとくゐん殿との—なとくゐんあつぐひしつる

赤田陣あかたじんと川がはよむ

月十二年つきにじふねん父康景ちちかうけいとおかしく赤勅あかしやく

氣きとつる

寛永かんゑい五年ごねん九月くわがつ十二日じふににち赤ゆるあかされ

あつる

名徳院殿よりつとくく戸川る

日年十二月晦日糧米千俵と給る

康勝

左兵衛尉 左列後松より生保

十三歳ありて

大指現よりつとくく戸川る

十六歳乃とまきより

名徳院殿よりつとくく火消番より

とるりろのつとくくあつとくく大藪乃

経改と給る

康世

六右衛門尉 生國後河

寛永七年

將軍家よりつとくく多く戸つり水事院

麦とつとく

同十四年津膳をひとふ保

康通

七言集尉

生石伊勢

康豊

三郎三言尉

武列江戸子生家

寛永六年

台徳院殿より好福したる

日八年

康信

為と川と

將軍家よりつとふつり清小性徳乃

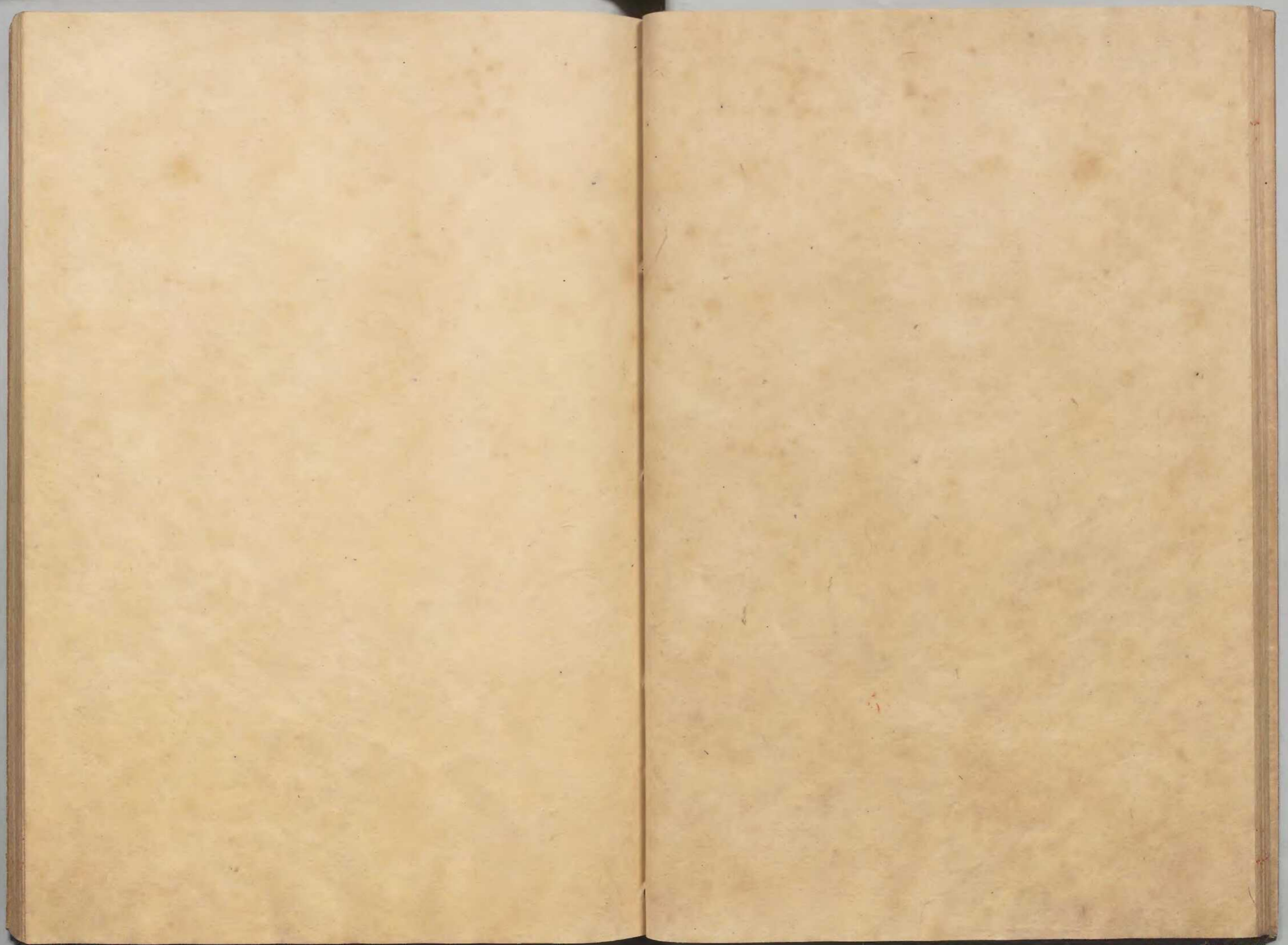
源右衛門尉 野列足利子生家

寛永十三年

將軍家よりつとふ

同十四年清本院書とつとふ

家紋 九月三日松三日月



天野あまの

● 雄光ゆうこう

固防守こぼうしゅ

従ふ位下したがひ

生國養濃なつくにやうのう

織田信雄おだのしんおの一ツノ勢列せりよく長崎の味なざきのあじと

あづり食邑けういふ二万石解とくと、内々

天正十二年

東照大権現尾列ひがししょうだいこんげんおしり好黒沛こうくろばい珠代たましろ乃々

沛を毀^{えん}乃ともき、信雄^{しんゆう}より雄光^{ゆうこう}と
つり^{つり}一^{いつ}皮^{かわ}地^ちの兼^あ月^{げつ}者^{しや}とら^らの酒^{さけ}升^{しやう}是^{こゝ}尉^じ
先^ま手^て乃^の吾^{われ}と^とお^おか^かし^しく^くぬ^ぬ馬^まと^とせ^せめ^めや
が^が

同年^{どうねん}日^ひ必^{かならず}蟬^{せみ}江^え乃^の城^{じやう}一^{いつ}益^{えき}指^{さし}籍^{せき}の^のと^とき^き、雄^{ゆう}光^{こう}

大^{だい}權^{けん}現^{げん}乃^の名^なお^おる^る一^{いつ}一^{いつ}さ^さま^まさ^さら^ら具^ぐ柄^{へい}口^{くち}と
せ^せめ^めや^やぶ^ぶる

信^{しん}雄^{ゆう}配^{はい}流^{りゆう}乃^のち^ち秀^{しゆ}次^じ一^{いつ}と^とび^び又^{また}

秀^{しゆ}者^{しや}一^{いつ}つ^つふ^ふう^うけ^けち^ちめ^めは^はく^く

大^{だい}権^{けん}現^{げん}乃^のは^はく^く一^{いつ}一^{いつ}く^くふ^ふつ^つり^り食^{じき}邑^{いふ}二^に千^{せん}

石^{いし}と^と并^{なら}成^{なり}と

孝^{かう}長^{ちやう}十^{じゆ}四^し年^{ねん}一^{いつ}と^と卒^{すつ}と

雄^{ゆう}得^{とく}

信^{しん}左^さ束^{さく}の^の尉^じ 生^{せい}國^{こく}同^{どう}前^{ぜん}

天^{てん}正^{せい}十^{じゆ}九^く年^{ねん}一^{いつ}と^とめ^めく

大^{だい}権^{けん}現^{げん}と^と并^{なら}得^{とく}と^と此^{こゝ}時^{とき}雄^{ゆう}得^{とく}十^{じゆ}七^{しち}案^{あん}よ

く清小姓乃列（まろ）よつてく（まろ）なる
文禄二年肥前（あき）列名（か）護（まも）至陣（た）に徳（い）生（ふ）

長又年（たけ）園原清陣（はら）よハ

名徳院殿（とく）りり（い）徳（い）生（ふ）

同十九年元和元年大坂（おさか）で乃

清陣（きよ）よハ水野（みづの）集人（あつひと）正（ただ）徳（い）生（ふ）

徳生（い）と（ふ）凱旋（がいせん）乃後

名徳院殿（とく）徳士（とくし）と（い）り清花（きよはな）よ（い）と（ふ）ひて

又月七日の軍功清（きよ）實（まこと）數（かず）を（い）りし時

雄得（おと）も軍忠（い）と（ふ）りげ（い）り（い）の旨（こころ）と（い）言（い）ふ

と（い）ふ（い）と（い）ひ（い）く（い）水（みづ）邊（へ）と（い）り

傾地（かた）多（おほ）と（い）く（い）り（い）り（い）作（し）り

く清使（きよ）者（しや）と（い）り

寛永七年又十六歳（い）り（い）く（い）死（し）す

雄（おと）則（さし）

檢（た）十（じゅう）郎（らう） 佐（さ）左（さ）尉（ゑう） 生（い）國（くに）氏（し）茂（も）

長十九年十六歳（い）り（い）く（い）死（し）す

わ

名徳院殿より賜

元和元年大坂御陣より父雄得と母

し〜信守と川と心凱旋乃ちち

釣命と心〜御中院者乃はり

列と

同九年

將軍家よりつ〜御中院者乃はり御小姓

は乃妻と川と心

寛永十七年四十一歳よりて死

雄好

三巫

寛永二年〜

名徳院殿と御湯

同六年御小姓は乃妻とつと心

のら御中院者乃はり列と

同十四年死と二十九歳

雄政たけまさ

指印部

雄好たけよしこれとやふひく子らに実まこと

を雄得たけとくが三男さんなんなり雄好たけよしが弟あとう

なり

作つくと号なづふり遺跡いせきを領りやうと

寛永十六年かんえいじゅうろくにんなり

台徳院殿たいとくゑん一福いふく〜

とよ、雄政十六歳じゅうろくさいなり

同十七年どうじゅうしちねん清本院せいほんゐん妻つま乃の従したがふ列りやうと

雄重たけしげ

指又郎さしまたらう 佐右衛門尉さゑもんゐり 生國武苑なまくにぶちゑん

寛永十八年かんえいじゅうはちねん雄重たけしげ十七歳じゅうしちさいなり

〜

將軍家と評福へいふく

同年どうねん清小姓せいしょうじ従したがふ番ばんとつと

家紋
松月

天野あまの

● 忠俊ちかひ

源義家 生玉冬河

長親ながちか自乃よりの命のみことによりて忠俊ちかひといふ

松平刑部まつだいら丞のぶ親光ちかひ一いつつつ一いつむ

享祿三年きやうりよく親光ちかひ宇利うり乃城のしろといふ

かこかこ二にんにん波城なみのしろ自熊よこ谷やといふ討捕うちとらといふ

あし〜親光我死するとき、忠俊
七八ヶ取乃疵と〜のら病死と

忠次

彦右衛門尉 生必同前

親光の嗣子松平玄蕃助〜河之

三列植野台殿〜とひく言名

このとき疵と〜のら

東照大権現冬列〜とひく一揆

と〜のら〜忠次酒井家つ尉

〜酒井中〜と〜せめぐる

〜後玄蕃助が子松平左る助〜つと

伊友左を並列新坂〜と〜りこりる

と〜忠次又酒井さ右衛門が〜

左る左る助〜と〜り左進と〜ら

と〜忠次も又介と〜家

元龜元年 江列姉川台殿乃とき

〜

左る助よりきくづみ首級と成り
大指現 実東 涉入 玉ろと 幸 徳 年とつ
と心
長三年 江戸よりと びく 八十三
業よりと 死に

正忠

三七郎 生 國 月 お
天正三年 左る助 長 藤乃 味と 了も

川よりと 幸 左る助 痛辛よりと 了
家より 帰る かの ゆよ
大指現乃 嚴令と 了も 名代と
と 正忠 後 味と 了も 家
同 年 七月 十一日 左馬助 死 去乃 了
り 左る助 嫡子 松平 三郎 次郎よ
所と
同 十二 年 尾 列 長 久手 名 残乃 了
これよりと 了も 後 三列よりと 了も

病死

忠重

彦右衛門尉 生國同前

天正六年 忠重十九歳なりしとき

大指現を列演松よりしりて

ゆきゆきしりてしりて 後列敷度れ哉

場よりしりて甲列新府陣等より

供せり

月十二年 長久手合戦の時供せり

川と

同十八年 小田原陣より供せり

是又長久手合戦京勝と沖征伐

乃と下野至小山より供せり

同年 宮原出陣のとき

大指現乃作とてしりて江戸より

下野のち

名徳院殿

將軍家よりしりてしりて江戸

忠節

孝八郎 生國同家

寛永七年忠節十又歳乃と云

〜

大指現〜

忠節清陣之供在と云此

名徳院殿

將軍家〜

忠顯

源左衛門尉 氏翁忠〜

寛永五年忠顯十又歳乃と云

名徳院殿〜

のち

將軍家〜

正長

信又右衛門尉 生国後

寛文十年十一月

大指現り 福き 多く 戸り 家

元和元年大坂陣に侍奉す

のち

名徳院殿

將軍家り 福き 多く 戸り 家

正重

九郎右衛門尉 生国後り

寛永又年二月正重十六歳に

福き 多く 戸り 家

名徳院殿り 福き 多く 戸り 家

のち

將軍家り 福き 多く 戸り 家

家紋 丸の内 三本松 三日月

天野あまの

● 重久しげひさ

孫左衛門 生國まにこ冬列

東照大権現乃湯ゆ先祖せんぞより累代ついでつゝ

~~~~~  
河原家西三河岩戸村いわいより

食邑けいと願ねがむ

天正十八年冬列とうていよりしげひさと願ねがむ



崇八十七 法名 淨安

久次

孫左衛門 生玉同前

大権現 一いつくすくす川

天正十二年 長久寺陣に供養

くくくる名とゆかり

うねら 嚴令とくまの教年

奥列よともむき 清鷹とともむ

岡東沖入玉のゆき 武列入同郡  
一とひく食邑とゆかり  
長十一年

大権現の約令 一とつく 紀伊大納言

頼宣卿に属 一食邑千石とゆかり

一とめ 頼宣卿 水戸一とあるとゆかり

久次家老よくともつらつと人を

次とつらつら 頼宣卿 後列とゆかり

後とつらつ 久次眼とつらつとゆかり

くつとどきれども<sup>さいち</sup>幸地りとのど  
—後紀列<sup>きり</sup>よあれとよおさぐ

領と

元和七年紀列よとひく<sup>と</sup>元と

七十四案 法名<sup>あん</sup>春法

重房<sup>しげふさ</sup>

孫<sup>まご</sup>左衛門 生國相掾

長十年正月十一日<sup>しん</sup>り

名徳院殿<sup>なとくゑん</sup>りつとつり<sup>しん</sup>り

火<sup>ひ</sup>れ<sup>り</sup>の<sup>の</sup>藁<sup>わら</sup>と<sup>と</sup>ほ<sup>い</sup>と<sup>い</sup>

同十一年<sup>どうじゅういちねん</sup>又久次<sup>またひさつぎ</sup>頼宣<sup>たのむね</sup>郷<sup>ごう</sup>よ<sup>よ</sup>所<sup>しよ</sup>と<sup>と</sup>る

ゆへり

大指<sup>おほさし</sup>現<sup>げん</sup>ら<sup>ら</sup>久次<sup>ひさつぎ</sup>が<sup>が</sup>食<sup>じき</sup>邑<sup>むら</sup>三百石<sup>さんひゃくいし</sup>を

重房<sup>しげふさ</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>向<sup>むか</sup>ふ

同十九年<sup>どうじゅうくねん</sup>大坂<sup>おさか</sup>御陣<sup>ごじん</sup>の<sup>の</sup>と<sup>と</sup>よ<sup>よ</sup>大<sup>おほ</sup>番<sup>ばん</sup>

乃<sup>の</sup>役<sup>やく</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>阿部<sup>あべ</sup>俊<sup>しん</sup>中<sup>なかつ</sup>と<sup>と</sup>が<sup>が</sup>經<sup>きよ</sup>よ<sup>よ</sup>あ<sup>あ</sup>りて

首級<sup>くびきり</sup>と<sup>と</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ

乃軍家よりつてくつてくつて川

寛永元年下総北<sup>しほつ</sup>必<sup>ひつ</sup>合<sup>あ</sup>領<sup>りやう</sup>の内<sup>うち</sup>

とくく百石の食邑とくく之給ふ

同又年大津藩の領改とあり

同十年茂列小机<sup>こまき</sup>よりとくく又百

石此領地とくく之とあり

同十九年三月十九日 作よりあり

津妙分<sup>たづたけ</sup>よりとあり水子<sup>みづこ</sup>軍人<sup>ぐんじん</sup>と

あり

重時

傳左衛門 生國武藏

寛永五年

乃軍家よりつてくつてくつて聖年

とくく大津藩と川とあり

同七年食禄とくくあり

同十年常陸北<sup>ひつち</sup>必<sup>ひつ</sup>江<sup>え</sup>戸<sup>ど</sup>藩<sup>はん</sup>領<sup>りやう</sup>安中<sup>あなかつ</sup>

村よりとくく食邑とくく之給ふ

家紋  
三日月  
丸ノ  
内ノ  
松ノ

天野あまの

某

彦左衛門尉 生國三河

廣忠ひろただ郷ごう

東照大権現とうしょうだいこんげんよりいふくく川がわのふ

くさくさ

政弘

嘉吉末つ 生玉同前

大権現

台徳院殿りつく多く戸川家

元和九年八月廿三日六十二歳り

〜〜死と 法名が月し秋た通た照せう

政則

嘉吉末つ 生玉武藏

元和五年十二月の〜

將軍家りつく〜

寛永五年九月 作り〜

小十人の〜

政成

仁右衛門 生國同前

寛永三年四月十九日

將軍家りのりにく入ることは何れの家

家紋

丸いの内うにう三さん枚まい松の月つき

天野あまの

● 貞有まこと

清老東門 生國三河せいろうとうもん せいこくさんか

廣忠郷ひろちゅうきょう 一ツノ河代いつのかわしろ 年男としおとこ

かふ

天文十一年

東照大権現河誕生とうしょうだいこんげんがたにんじょう の所ところ 命いのち



ふり負有が飛こころ乃地よ別館  
と川ふり負有が書涉乳と  
下つる

貞久

又太郎 後清大東門と号と 生至因  
大指現よりつる  
男と分海のち 作よら 信康  
居る 信康を涉遊去れら

飛こころ

正勝

清大東門  
尾浪義直卿よりつる

貞賢

又太郎 生至三河  
大指現より 涉湯と

大指現貞賢とありてはるる戸口  
汝ハ累代乃家人なりと出移んこる  
乃作とありてはるる食禄とありてはる  
名徳院殿よりてはるる戸口  
寛永二年又月四日四十一歳  
——とありてはるる

貞政

又太郎 生國 駿河

父貞賢が遺跡とありてはるる

將軍家よりてはるる戸口

寛永十年領地とありてはるる

同十一年七月十二日二十歳よりてはるる

死とありてはるる

貞重

三郎 左衛門 生國 駿河

寛永十又年十二月廿二日

將軍家より 降賜し 翌年正月又日

作小しわく大沙耨と川とむし見貞政

存命のちら貞をふ貞政がまを

ふしめ終ふべきなりと新し

下川はらうがゆへり貞政がまを

と中減しと貞をた下し終ふ

家紋 白地半月村雲 成松 内月

天野ウツノ

正成マサナリ

當書 幸八ユキヤチ又郎マタノ大史オホシ 生國ウツノ冬河フユカ  
寛永十年カンエイジウ又月マタツキ廿方ニニツ一イチ飛トビ

正吉マサキチ

長三郎チヤウサンノ

生國ウツノ冬河フユカ

正成が養子とあり実ハ山と三太郎の正成が  
子あり

名徳院殿と深福一沙耨とつとむ

元和六年

將軍家よりつとむる家

正世

又郎大夫 生玉同前

祖父正成が養子とあり家督とつ

名徳院殿

將軍家よりつとむる家

正久

七郎 生玉同前

將軍家よりつとむる家

家紋 丸の内より三枚松 月星

某

山之上作守

本八源氏信濃國を月より乃ら進江

至山より一徑をるゆへに月をわ

しめ山と号すと北條氏政よりつふ

正家

山之上七志門尉

生國信濃

正次

東照大権現よりめられくお湯と

小條氏直才岩付十郎よりつゝ後  
肥前乃必名護屋よりつゝ

山之上七志門尉 生國相模

つゝめハ小條氏直よりつゝ

文祿元年肥前名護屋陣乃時

大坂よりつゝ



天野あまの

● 正重ただしげ

孫太郎 生息なま三河みかわ

東照大権現とうしょうだいこんげん 一いちつつ二に三さん四し五ご六ろく七しち八はち九く十じゅう十一じゅういち十二じゅうに十三じゅうさん十四じゅうし十五じゅうご十六じゅうろく十七じゅうしち十八じゅうはち十九じゅうく二十じゅうじゅう二十一じゅうじゅういち二十二じゅうじゅうに二十三じゅうじゅうさん二十四じゅうじゅうし二十五じゅうじゅうご二十六じゅうじゅうろく二十七じゅうじゅうしち二十八じゅうじゅうはち二十九じゅうじゅうく三十じゅうじゅうじゅう

永祿八年えいりくはちねん 冬ふゆ 別わか 吉田よしか 乃なり 城しろ 之の 名な

戦いくさ の 三河みかわ 下しも 条じょう 一いち 二に 三さん 四し 五ご 六ろく 七しち 八はち 九く 十じゅう 十一じゅういち 十二じゅうに 十三じゅうさん 十四じゅうし 十五じゅうご 十六じゅうろく 十七じゅうしち 十八じゅうはち 十九じゅうく 二十じゅうじゅう 二十一じゅうじゅういち 二十二じゅうじゅうに 二十三じゅうじゅうさん 二十四じゅうじゅうし 二十五じゅうじゅうご 二十六じゅうじゅうろく 二十七じゅうじゅうしち 二十八じゅうじゅうはち 二十九じゅうじゅうく 三十じゅうじゅうじゅう

討死うちし 宗むね 四よ 十一じゅういち 法名ほうな 淨誓じやうせい



重次

小麦古参門 生國月お

墨崎三郎 信康よりつゝて沖小姓

ごあり 信康より沖遊去乃後

大指現乃作よりより重次と平定より以

よりあづけさせしゆみ

天正六年 駿列を日名戦乃少き

物比奈市島忠よりりしる

同十年 甲列 若沖子 沖對陣此

少き身 休兵よりりしる 首級を得

より

同十八年 武列 岩築名戦 若沖

もすし 首級を得よりりしるのち

名命よりりしる 尾張大納言

義直よりりしる 沖遊去乃後

所よりりしる 先子の組よりりしる 信濃

家督よりりしる 助成よりりしる

寛永十七年四月十日死と案  
八十六 法名宗閑

某

助大吏

義直卿

寛永十四年正月廿六日死と案  
又十三

重勝

妻古妻

生國同前

長八年

大権現

同十九年元和元年大坂御殿  
の御陣に侍奉と云此後

名徳院殿

將軍家より法之と云く戸川子

重利

小麦七条

生國同前

寛永七年

乃軍家一ノノ

重吉

又七条

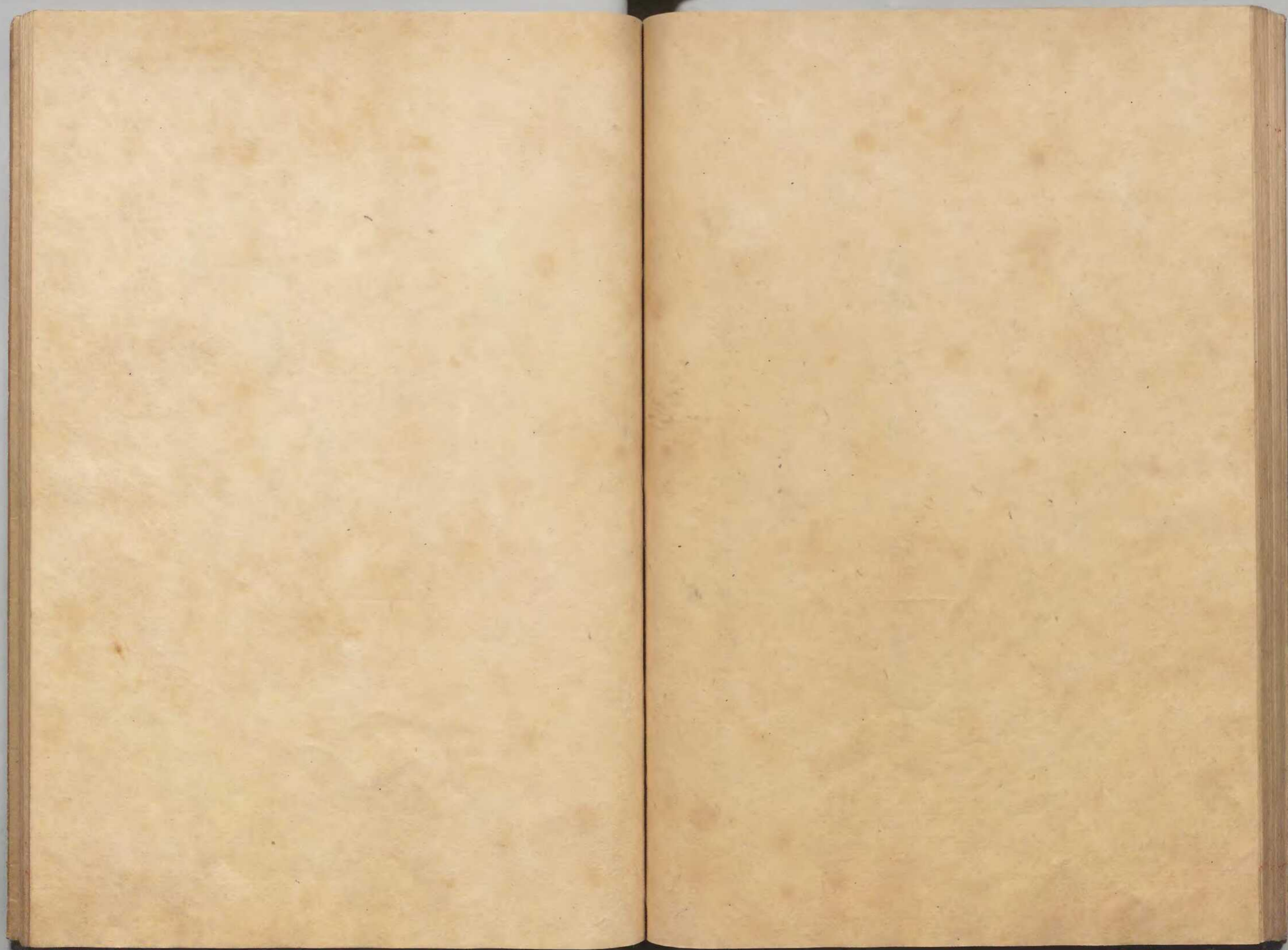
生國同前

寛永十七年

乃軍家一ノノ

家紋

九ノ内三日月三星三本松



天野カノ

●正盛マサシキ

甚シ多ク衆シ

生國之河

清康君シヨウケウ

一ヒト人トシテ之ノ也ナリ

東照大権現トウショウ之ノ御ミコト也ナリ

正久

甚七郎

生年同前

大権現よりおされうた

名徳院殿

將軍家よりつとていふ

寛永十一年十一月七十九日に

病死

正信

清吉系

生年同前

元和五年十二月

將軍家よりつとていふ

徳とあり清吉とあり

寛永八年五月 作より

清勝物よりとあり

家紋

丸乃内

三枝松三枝の松

三日月三日の月

天野の

● 盛宣の

孫平

生玉冬河

酒井の七郎のつとの武列の川越の

仙波の村の一のとのみのくの糸地の願の

長元元年三十八歳の死の

法名の体の



盛次

之曰古集門

之列西尾

名徳院殿

將軍家

貞嗣流

貞嗣之末智磨乃孫巨勢磨乃子なる

蜂屋

蜂屋冠者範親が後胤なりと云

● 業膳

市左衛門 尾列 志津志村に生る

織田信長より

弘治二年 稻生名跡乃とき討死

宗宅

市右衛門

生國同前

享長五年 冥原凱旋乃後

東照大権現

同九年 子死

宗正

傳右衛門

生國同前

大権現

名徳院殿

寛永元年 子死

宗包

三郎 左衛門

生國同前

大権現

名徳院殿

寛永六年 子死

正成まさなり

又郎無兼 尾列おしり清須きよすよりむす

大権現

名徳院殿より清須より清須  
將軍家より清須より清須

榮次えいじ

三郎在清門 駿府しゅふにむす

十四栄次じゅうしよえいじ

名徳院殿より清須より清須

將軍家より清須より清須

正仍まさなり

志之助 武列ぶり江戸より清須

寛永十二年

將軍家より清須より清須

榮之

作内 尾列 清須

大権現

名徳院殿 將軍家

正列

女之部 生金山城

大権現

名徳院殿 將軍家

榮之

権之部 生金山河

寛永十三年

將軍家

家紋  
格目搜手

某

歩之丞 中島貞河

東照大権現より此の御代に  
御代の名に於ては御代首級とあり

蜂屋

了之稱と姓名いづるこころを義濃國  
蜂屋かりとあり

永祿八年三列者田りしは合戦  
の時も、底とくふふ、乃越人に在郷  
三列むつか村りり、乃家りのきどいへと  
く死に二十六歳

某

半と魚 生必同前

大権現につくくつり

天正十二年尾列長久手合戦の時

首級よめり

文祿元年三十三歳乃死に

可正

半と巫 生必同前

大権現りつくつり

長久手合原陣に供なり

同十九年元和元年大坂合戦の

御陣に供なり



名德院殿  
元和四年三月二十七日

可佐

半之丞 生玉茂

寛永十年五月

將軍家

家紋 丸内桔梗

蜂屋はちや

● 定進さだま

源右衛門

生息矢野

東照大権現とうしょうだいこんげん 一いつつつ一いつつつ一いつつつ一いつつつ

三列さんれつをらびよ江戸えど一いつつつ一いつつつ一いつつつ一いつつつ

七葉しちえつの毒どく以もて乳ちふ

長元ちげん年ねんお列れつよよととひひくく病びょう

元七十三歳 法名禅光

定頼

七五歳 生國同前

大権現一一二一三一四一五一六一七一八一九一十一十一一十二一十三一十四一十五

長又年 官原陣一乃二と三て  
 信在一一二一三一四一五一六一七一八一九一十一十一一十二一十三一十四一十五  
 御坂陣一乃二ち 作一と二か三ふ四り  
 与力十一濟二と三あ四り一る

定則

寛永六年七十一歳一一二一三一四一五一六一七一八一九一十一十一一十二一十三一十四一十五

源助 生國同前

台徳院殿一一二一三一四一五一六一七一八一九一十一十一一十二一十三一十四一十五

長又年 園原陣一乃二信在一と二て

同七年 江戸一乃二ち一と二あ三り一る

法名通起

正次

源吉承一乃二尉

生國同前

兄定則が造詣とつぎ

名徳院殿よりつとくくつと大

番乃組より列一太坂と彦代

よ徳をといふ

將軍家よつとくくつと

定者

七五系

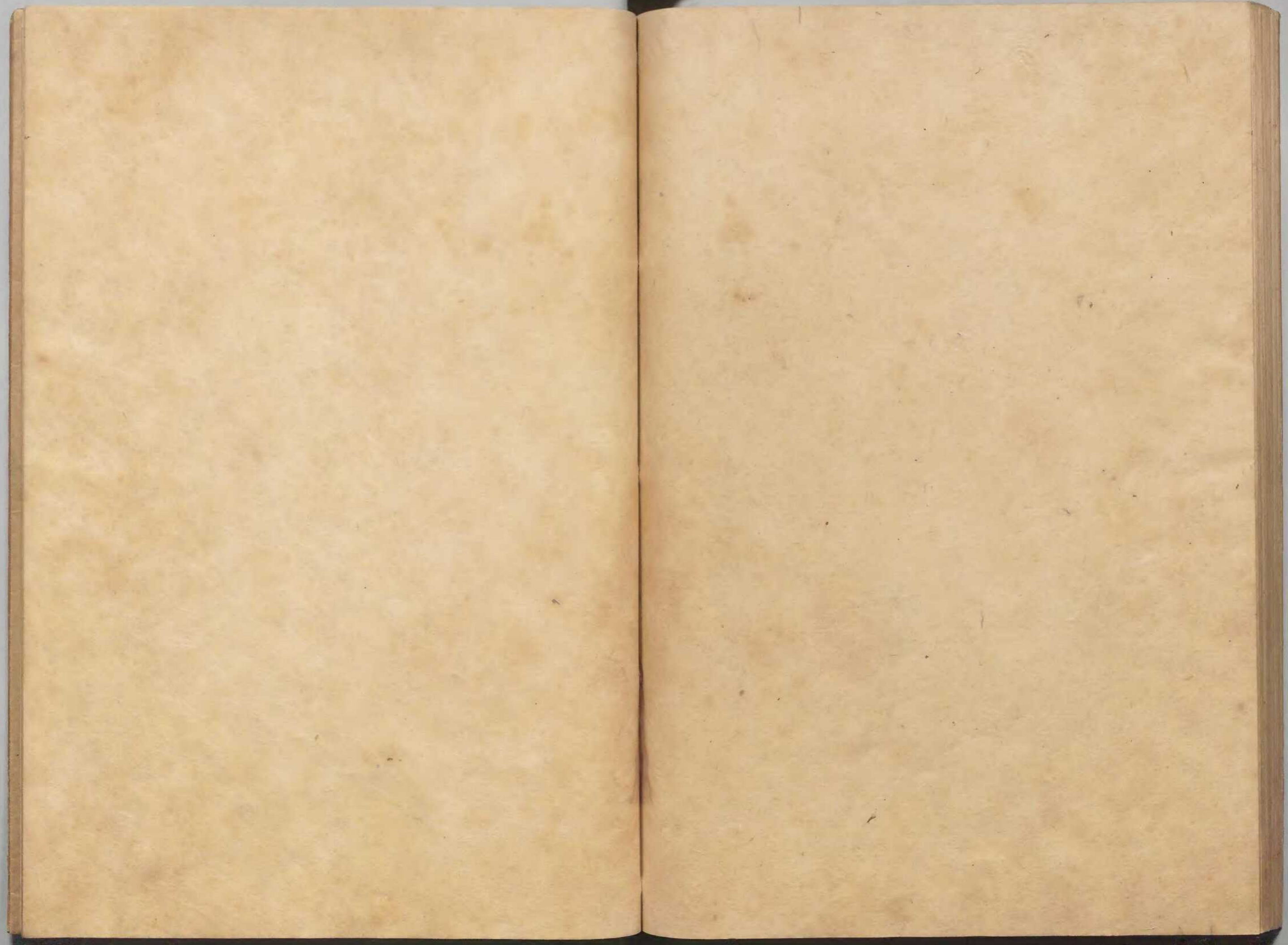
生玉武藏江戸

定頼が養子と形る實ハ布施孫系

き直が子なりき直ハ定頼が心こり

幕紋

丸の内より格梗



大道寺

家傳いへんよりいへり山井三位永頼やまのい さんか ながら

五代の孫鳥羽院乃進士實兼の子ごたいのそん といろのいん のしんし じつかねのこ

日向守通憲ひゅうがのりやうのりやう 諸子しよこかりか

乃らぬ納言信西と称し城列しやうごん しんせい となづかひ じやうりやく

田原乃奥大道寺たはらののおく だうだうじ 任にんと發はつ專せんハ

る乃後胤のちのういんかりと云々

某

發專

城列 大道ちりい

め小條早 雲り一

りりりりち又今川沿部大捕

義忠り一 臣列 並山とせめ

やめらるる後相列 小田原乃城り

とひく討死

某

義人

小條氏 綱り一 臣一 武列 河越乃

城り一 恒と

某年七月十二日河越り一 とひく

死と案六十二 法名宗心

政重

駿河守 生玉山城

小條氏康よりつとむ時大田三樂  
小田佐竹を率て武列岩付の  
城より指籠氏康政重とありて  
先鋒とてこれとせしむるも政重  
加久呂臺よりとて見えしごとく  
戦功とてげりて以後のびのよの

と城中より入河屋志口乃後と焼  
落大に勝利とありて氏康これと  
感し〜武列岩付松郷と成とて  
うろちら氏政とてびり氏直よ  
つとむ数度軍功ありしつとむ  
と列松枝城佐列小諸城とてびり  
佐久郡と領知と

天正十八年七月十九日〜死と案  
五十八 法名淨徳



直次

内務助

生國茂茂

氏直一字とゆるとありて直次と

号と

天正十七年十二月十二日

難とつゆふと事、氏直中良長尾

小幡安中等とありて直次より副

甲列三栗谷乃多よとひくあり

いづこ藤竹乃小屋と焼首十八級

とゆく小田原よりとて氏直是

を廢次とて感状とさづて直次が

郎一從等首とゆきの十七人あり氏直

とのとて禮文とあり

同十八年豊臣秀吉小田原乃城と

せし七月四日氏直城中よりおとさ

直次後兵三百餘人を率て氏直よ

しつとあり

東照大権現足小川乃惣門よりとひく

れとるまゝ安部若古束の牧野

半古束の清使として直次とあき

向ひていりころとこ路よ

とひく

大権現と清礼をうけら又を山左部

と清使として清小神をびり

羽織とひく

是るも又年石田三成謀叛の時直次

福嶋左衛門大次正則が許りあり

八月廿二日彼阜比城と

攻とき直次本城よりとる石く首

とひく疵とひく事三ヶ所也

正則これと不々々尾列知多郡

大野村よりとひく多他とく

さつうらち大垣より岡原より

地りしつとるのあつ正則直次

令これと討しとて小

牧田邊一りしとひく相我首級と  
ゆふり正則これと鷹と櫛田鶴毛  
とひふるとあつと

同年九月雲原名戦乃とまきむ多  
上野介正純御使とて正則が陣  
下りしと告ていそ物見乃老  
一人勝山一りしとていそ  
とかりこゝにとひく正則直次  
をて幕府一り福一とそ

下つとむ

大権現竹中佐長つを直次に人給と  
十四日乃衣敵陣一りしとそ  
既とそとく又日乃未明一り勝山  
一りしとつとびとてこれと云  
とそとつとひと同日午乃  
刻一り清隆とそめとそひ敵と  
とそと減亡とそとそ直次大り  
戦志とそと首級とそ

正則ただのりされと感あはれしき差物さぶものとゆふ

寛永十一年五月十九日めされ

將軍家しんぐんけより賜たまはし

同十二年 作つくりしりて

かりと力同心ちからどうしんとあり

直敷ただしき

指内さしうち 生玉なまたま養濃やうのう

寛永十三年より

將軍家しんぐんけより

家紋 丸まる乃の内うちより上かみ解とるはす

